

解答は別紙の解答欄に記入しなさい。

I 次の文章の(イ)～(ニ)を読んで、文中の空欄(A)～(N)に該当する適当な語句をそれぞれの語群の中から選び、1～9の数字を、語群の中に適当な語句がない場合は0を、解答欄に記入しなさい。

(イ) 推古天皇の豊浦宮での即位以降、大王宮は、奈良盆地南部に集中して営まれるようになった。(A)で673年に即位した天武天皇は、中国の都城制にならった都の造営を開始した。天武天皇の死後、その諸政策を引き継いだ(B)天皇によって藤原京が完成され、遷都がなされ、本格的な宮都が成立した。8世紀初頭には、(C)天皇が奈良盆地北部の平城京へと遷都した。740年以降に都は転々と移り、恭仁京の時期には国分寺建立の詔が發布され、近江の紫香楽宮では大仏造立の詔が出された。744年に遷都した(D)は745年に正式に平城京に遷都した後も維持され、桓武天皇が長岡京に遷都するまで残された。

- | | | | | |
|-------|---------|------|----------|------|
| 1 難波宮 | 2 大津京 | 3 元明 | 4 飛鳥浄御原宮 | 5 元正 |
| 6 持統 | 7 飛鳥板蓋宮 | 8 文武 | 9 小治田宮 | |

(ロ) 10世紀の慶滋保胤の著作『(E)』からは、平安京右京域の居住地としての利用が放棄され、左京域に人口が集中し、古代都城の景観が崩れていったことがうかがえる。11世紀後半の院政期になると、平安京北東の白河の地に六勝寺が造営され、京の郊外には白河殿・鳥羽殿などの(F)もつくられた。鴨川以東には、平氏の拠点である六波羅や、(G)上皇の(F)である法住寺殿が建設され、京域が東部と南部に拡大することになった。

- | | | | | |
|--------|------|-----------|-------|-------|
| 1 院庁 | 2 白河 | 3 池亭記 | 4 院御所 | 5 里内裏 |
| 6 往生要集 | 7 崇徳 | 8 日本往生極楽記 | 9 後白河 | |

(ハ) 13世紀から14世紀になると、1205年の建仁寺建立に始まる(H)の寺院がつぎつぎと創建されるようになり、京都周辺の景観を大きく変えることになった。1331年、土御門東洞院殿に践祚・即位した持明院統の(I)天皇が入ると内裏として定着し、14世紀後半に幕府が今出川室町に(J)を営むと、この二つの御所を中心とした新たな上京の発展が始まった。一方で、南の三条・四条には新町・室町周辺に、商人の町としての下京が成立するなど、都市の自治組織としての町が成長した。京都が応仁の乱で焼かれた後には、町の中心的構成員である(K)によって復興がなされた。

- | | | | | |
|-------|--------|--------|------|-------|
| 1 日蓮宗 | 2 光厳 | 3 柳の御所 | 4 光明 | 5 浄土宗 |
| 6 会合衆 | 7 花の御所 | 8 年行司 | 9 禅宗 | |

(二) 京都は、16世紀前半に延暦寺の衆徒が日蓮宗徒を襲撃した（ L ）により下京が焼かれ、16世紀後半の織田信長による焼き討ちで上京も焼かれた。しかし1587年に（ M ）による京都の都市改造計画が始まり、1591年に洛中と洛外を明確に分かつ御土居が構築されると、新たな都市としての領域が確定された。江戸時代になると、観光案内書の出版や東西本願寺に代表される寺院の（ N ）が京都に集中したことなどが要因となり、観光都市としての性格を持ちはじめ、今日に至る観光都市京都としての発展が始まった。

- | | | | | |
|--------|--------|--------|----------|--------|
| 1 本山 | 2 本陣 | 3 嘉吉の乱 | 4 天文法華の乱 | 5 三好長慶 |
| 6 筒井順慶 | 7 細川藤孝 | 8 末寺 | 9 永祿の変 | |

II 次の文章（イ）・（ロ）を読んで、文中の空欄（A）～（T）に該当する適当な語句をそれぞれの語群の中から選び、1～5の数字を解答欄に記入しなさい。

（イ）（ A ）は若い頃、源頼朝の後押しで摂政となった（ B ）に仕え、その弟で天台座主となった（ C ）などと交流しながら、歌人として成長した。（ B ）の失脚後は（ D ）に近づき、その命によって編纂された『（ E ）』の撰者に加えられた。1220年に（ D ）の逆鱗に触れて失脚するが、その翌年の（ F ）で敗れた（ D ）が配流されたために復活する。（ B ）の孫で、将軍（ G ）の父という立場を背景に朝廷で権力をふるった九条道家の家司であったことから、その支援を得て正二位権中納言まで昇った。嫡男の為家の正室は（ H ）国の有力御家人宇都宮頼綱の娘で、初代京都守護（ I ）の孫にあたるなど、（ A ）の家そのものも鎌倉幕府と縁が深い。なお、小倉百人一首は頼綱の求めに応じて（ A ）が撰んだものである。為家の嫡子為氏は母方の縁で関東にしばしば下向したが、その異母弟の為相も、為家の遺領をめぐる為氏を訴えた母が紀行文『（ J ）』に記した幕府法廷での訴訟を引き継ぎ、鎌倉に度々赴いた機会に歌壇を指導している。

- | | | | | |
|-----------|----------|-----------|---------|-----------|
| A 1 西光 | 2 西行 | 3 藤原俊成 | 4 藤原定家 | 5 藤原家隆 |
| B 1 藤原忠通 | 2 藤原頼長 | 3 藤原兼実 | 4 藤原基通 | 5 藤原泰衡 |
| C 1 無住 | 2 慈円 | 3 重源 | 4 貞慶 | 5 明恵 |
| D 1 崇徳上皇 | 2 後白河法皇 | 3 後鳥羽上皇 | 4 後高倉法皇 | 5 順徳上皇 |
| E 1 千載和歌集 | 2 新古今和歌集 | 3 金槐和歌集 | 4 新葉和歌集 | 5 新続古今和歌集 |
| F 1 保元の乱 | 2 平治の乱 | 3 治承・寿永の乱 | 4 承久の乱 | 5 宝治合戦 |
| G 1 頼嗣 | 2 頼家 | 3 頼経 | 4 宗尊 | 5 実朝 |
| H 1 武蔵 | 2 上野 | 3 下野 | 4 常陸 | 5 下総 |
| I 1 北条時政 | 2 和田義盛 | 3 大江広元 | 4 三善康信 | 5 北条時房 |
| J 1 方丈記 | 2 海道記 | 3 東関紀行 | 4 十六夜日記 | 5 とはずがたり |

(ロ) (K) で生じた隙を突いて京都を占領した南朝が再び没落した後、後光厳天皇が即位して北朝を再興するにあたって力を尽くした関白 (L) は、天皇の信頼を得て、自ら編纂した連歌集『(M)』を勅撰和歌集に准ずる論旨を下された。その後も連歌の規則の改訂を進めて『(N)』として集大成し、九州探題として下向した (O) の求めに応じて『九州問答』を著すなど、連歌の第一人者として活躍する。猿楽にも関心を寄せ、これを大成することになる (P) がまだ少年の頃に彼の芸能に魅了され、藤若の名を与えたという。後光厳の跡を継いだ後円融天皇から遠ざけられると、(L) は将軍 (Q) に接近し、積極的に作法を指南して朝廷への参入を助け、(Q) が武家として平清盛に次ぐ2人目の (R) にまで昇って公家社会に君臨する道を開いた。(L) の子孫も室町将軍家との関係を維持して朝廷で重きをなしたが、将軍 (S) に『樵談治要』を献じたことで知られる (T) も実は (L) の孫である。

| | | | | | |
|---|--------|----------|---------|---------|--------|
| K | 1 元弘の乱 | 2 中先代の乱 | 3 観応の擾乱 | 4 明徳の乱 | 5 応永の乱 |
| L | 1 一条兼良 | 2 二条良基 | 3 三条西実隆 | 4 四辻善成 | 5 北畠親房 |
| M | 1 菟玖波集 | 2 新撰菟玖波集 | 3 犬菟玖波集 | 4 山家集 | 5 閑吟集 |
| N | 1 禁秘抄 | 2 十訓抄 | 3 職原抄 | 4 応安新式 | 5 新加制式 |
| O | 1 一色範氏 | 2 佐々木導誉 | 3 細川頼之 | 4 大内義弘 | 5 今川了俊 |
| P | 1 金剛善覚 | 2 金春禅竹 | 3 蓮阿弥 | 4 世阿弥 | 5 観阿弥 |
| Q | 1 義満 | 2 義持 | 3 義教 | 4 義政 | 5 義尚 |
| R | 1 関白 | 2 太政大臣 | 3 右大臣 | 4 右近衛大将 | 5 大納言 |
| S | 1 義満 | 2 義持 | 3 義教 | 4 義政 | 5 義尚 |
| T | 1 一条兼良 | 2 二条良基 | 3 三条西実隆 | 4 四辻善成 | 5 北畠親房 |

Ⅲ 次の文章の空欄 (A) ～ (H) に該当する適当な語句・アラビア数字を記入しなさい。なお、数字を記入する場合は整数を用いなさい。

1854年にロシア極東艦隊司令長官の (A) が来航し、日本は日露和親条約の締結で (B) 箇所の港の開港を取り決めた。その直後の1856年にロシアはクリミア戦争の敗北でバルカン進出の野心を砕かれ、東アジアへ対する関心を高めた。こうした状況の下で日本は1874年に (C) 制度を設け、北海道の開拓とロシアに対する備えを固めた。1891年には滋賀県で訪日中のロシア皇太子が巡査の (D) に切りつけられ、負傷した。ロシアとの関係悪化を苦慮した日本政府は (E) 罪の適用による死刑を裁判所に求めたが、大審院長の (F) は政府の要求を退けた。しかし、外務大臣の (G) は責任を負って、辞任した。1895年の下関条約で日本は遼東半島を割譲したが、ロシアは同半島の返還を要求した。その要求を日本は受け入れ、還付報償金として庫平銀 (H) 千万両を獲得した。

IV 次の史料(イ)～(ホ)を読んで、設問に答えなさい。

- (イ) 唐客(A)罷り帰りぬ。則ち復また小野妹子臣を以て大使とし、吉士雄成は小使とし、福利は通事おとさとし、唐客に副えて遣す。(中略)是の時に、唐国に遣す学生は、倭漢直福因・奈羅訳語恵明・a 高向漢人玄理・新漢人大国、学問僧は b 新漢人旻・南淵漢人請安・志賀漢人慧隱・新漢人広濟ら、あわせて八人なり。
- (ロ) 入唐(B)従八位下 c 下道朝臣真備、唐礼一百卅卷、太衍曆経一卷、太衍曆立成十二卷(中略)を献たてまつる。
- (ハ) 大学諸儒を会し、陰陽書・新撰葉経・大素等を講論せしむ。大学の南辺に、私宅を以て(C)を置き、内外の経書数千卷を蔵す。壑田四十町を永く学科に充て、以て d 父の志を終げしむ。
- (ニ) 伏して惟おもうに、皇帝陛下、教化簡樸かんぼくにして、文明鬱興うつこうす。おもえらく、伝聞は親見にしかず。古を論ずるは今を徴もとむるにしかず。ここに正三位行中納言兼右近衛大将春宮大夫(D)に詔して、臣らをして斯文しぶんを鳩あつめ訪とわしむるなり。
- (ホ) 臣某、謹みて在唐僧中ちゅうかん 瓘おうとつの、去年三月商客王訥おうとつらに附して到すところの録記を案ずるに、大唐の凋弊の、これを載のすること具つぶさなり。

(原文を一部修正)

- 問1 (A)～(D)に当てはまる適当な語句を記しなさい。(A)は隋の使者の名。(B)は下線cの人物が唐に派遣された際の立場。(C)は和氣氏の設置した大学別曹。(D)は淳和天皇の命を受けて史料(ニ)を編纂した人物。
- 問2 下線a・bの人物は、ある政治改革後に国博士に登用された。その政治改革の名称を記しなさい。
- 問3 下線cの人物は、帰国後、玄昉とともに政界で重用された。その時の天皇の名を記しなさい。
- 問4 下線dの人物が769年に派遣された神社の名を記しなさい。
- 問5 史料(ニ)は、827年に成立した漢詩文集の序である。この漢詩文集の名称とも関わる、文芸を柱として国家の隆盛をはかる思想を何というか、記しなさい。
- 問6 史料(ホ)に書かれた理由によって、ある事業が停止された。その事業が果たしてきた役割について、以下のキーワードを用いて100字以内で説明しなさい。

政治機構 漢詩文 国風文化

(下書き用)

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |

V 次の史料(イ)・(ロ)を読んで、設問に答えなさい。

(イ) 御代つがれし初の年より、(A) 港にて、(B) の料とすべき銅の数たらずして、交易の事行はれ難く、地下の人、産業をうしなふ由、奉行所より告げ申す事ありて、^{それがし}某を召し問はるゝ事あり。たやすく論ずべき事とも覚えず、いかにもその事の本末、おもひはかりて後に申すべし、と答申す。それよりして奉りし前後の議草は、別に冊子となせし物共多ければ、其詳なる所は、こゝに記さず。その大要は、当家代をしろしめされて、(B) の事始しより、此かた、凡そ百余年の間、我国の宝貨、外国に流れ入りし所、すでに大半を失ひぬ。(中略)これより後、百年を出ず、我国の財用ことごとくつきなむ事は、智者を待たずして、其事明かなり。

(ロ) 一、(A) 表廻銅、凡一年之定数四百万斤より四百五拾万斤迄之間を以、其限とすべき事。(中略)

一、(C) 方商売之法、凡一年之船数口船・奥船合せて三拾艘、すべて銀高六千貫目ニ限り、其内銅三百万斤を相渡すべき事。(中略)

一、阿蘭陀人商売之法、凡一年之船数(D) 艘、凡て銀高三千貫目限り、其内銅百五拾万斤を渡すべき事。

注 地下の人：市民。 宝貨：金銀。 しろしめされて：お治めになられて。

口船・奥船：大陸の近い港から来る船を口船、南方の遠い港から来る船を奥船という。

(原文を一部修正)

問1 (イ) はある人物の自伝から抜粋したものである。その書名を答えなさい。

問2 (A) に入る共通の適当な語句を記しなさい。

問3 (B) には(ロ)の法令名の由来となった漢字4文字が入る。その語句を記しなさい。

問4 (ロ)の法令が發布された時の将軍は誰か、答えなさい。

問5 (C)に入る適当な漢字2文字を記しなさい。

問6 (D)に入る適当な漢数字を記しなさい。

問7 当時、(イ)の著者は側用人を務めていたある人物と政策を実施していたが、その人物とともに失脚した。高崎藩主であったその側用人の氏名を答えなさい。

問8 この政策の背景と意図について、100字以内で述べなさい。